

## 横綱改め

# 親方、堂々の土俵入り



去る10月30日(日)四谷の上智大学構内のクルツウハイム聖堂において、当サークルのメンバーである、おすもうさんこと伊藤栄一さんと、同じく島村泰子さんがめでたくご結婚なさいました。

新郎はあくまで凛々しく、新婦は純白のウェディングドレスに身を包みあくまで清純で美しく、じつに愛情あふれる微笑ましく素晴らしいお二人でありました。

“愛”というものをしつと説かれた神父様のお話とともに、今まで経験したこともない感動的な結婚

式でありました。

披露宴は近くのスクワール麹町で行われ、仲人に財団の事業課長であられる米山淳一夫妻、司会は田中彰一氏、撮影係に古城、長谷

川、谷口氏とわがサークルのメンバーが大活躍。他にも数多くサークルのメンバーが出席し、とても和やかなうちに宴は結ばれました。



続いて銀座において二次会が催され、たまたま、読売巨人軍の優勝パレードとぶつかり、お二人の記念すべき日に花を添えました。

新婚旅行は北斗星に乗り北海道へ。

もちろん上野駅まで伊藤ご夫妻を盛大にお見送りしたのはいうまでもありません。

どうぞお幸せに・・・



かくして二人は  
北海道の巡業先  
へ旅立つ

このたすきが全てを物語っています



親方夫婦と部屋の力士達



バンザイ三唱で角出？を祝う



ホームでは紙テープ禁止ですってば

## 上信電気鉄道 貨物輸送廃止

### デキの今後は？

ご存じの方も多いと思いますが、平成6年9月23日高崎-下仁田間（石灰輸送）26日高崎-南高崎間（セメント輸送）の運用をもって、上信電鉄の定期貨物輸送が廃止になりました。それにともなって、デキ1~3とすでに休車状態のED316の4両の電機の動向が注目されていますが、9月末現在、まだ未定とのこと。大方の見方では、デキ1・2は臨時、保線など事業用として残る可能性が高いようです。

デキは、大正13年12月の電化・改軌の時、ドイツ・シーメンス（車体はマン製）より輸入されたいかにもドイツ生まれといった凸型機です。ドイツの頑丈な造りと保守のおかげで、パンタグラフを除き、その当時の原形のままをよく保っています。車齢70年、トラストレインのC12より古く、「生きた化石」と言われてきましたが、交通事情の変化とリストラの

波の中に消えていく運命にあるのでしょうか。

近代文化遺産として、日本ナショナルトラストで保存するに値する車両と思いますが、とりあえず上信電鉄でより永く動態保存状態 現役であれば申し分ないがで余生を送ってもらえればと思います。

ちなみに、今回廃車をまぬがれないED316の経歴は、伊那電気鉄道デキ6として大正12年芝浦製作所新製、その後、国鉄飯田線ED316となり、一時廃車になっていたものを昭和32年に上信電鉄が譲り受けました。原形は凸型ですが、上信電鉄で車体を電動貨車のような箱形に新製され、台車・モーターなども取り替えられ、原形を全く想像できないものとなりました。

近江鉄道のED31と同形機です。

1994.10.9

浅田 朋彦



ボンネットとキャブの幅が同じ  
珍しい凸型機だ

写真はいずれも 94.9.26

最後の仕業についたのは  
デキ1



デキをホームまで回し  
花束贈呈が行われた  
（南高崎にて）



# 「トラスバイク 94」報告書

今津 勤

94年10月10日トラスバイク鉄道部会関西・恒例のトラスバイク。

近鉄上六駅コンコースに集合したのは総勢11名、はるばる東京からの参加1名、会員外1名、名古屋の出張から朝一番のアーバンライナーで駆けつけた豪の者もいて心強い限りである。

さて資料を渡して簡単に説明、もう少し詳しくは第一の目標である信貴山ケーブルの終点・高安山に上ってからのことにして準急で山本まで。

絶好のハイキング日和のなか、電車は河内平野を快調に飛ばして15分程で山本着。今迄は向かいの信貴山線専用ホームから発車していた電車も最近ではサービス向上でホーム向かい側でお出迎え。

平野から急に山岳鉄道並みに33/1000の急勾配で駆け上りあっけなく信貴山駅に到着。

西側ケーブルに乗り換えである。

以前は東側にもケーブルがあったので殊更に西側と書いたが、東側が廃止になった今ではこの注釈は不要だけれども、大阪の人は皆西側ケーブルと呼ぶ。

このケーブル、標高もそんなに高くなく延長も大したものでもないのに、勾配は結構急で最急は480/1000、その急勾配も何なく駆け上がり高安山駅に到着。

ケーブル巻き上げ場(山上駅)の見学をした後、改めて本日の行程と今日の経路の解説を行なう。

そもそも信貴山は古くから修験道場として栄え、多くの人が住みついていて、戦争中は集団疎開学童が多く暮らしていた。

然るに戦前東西両方にあったケーブルの内、西側が廃止されレールも外された。走っていた日本唯一の山上電車も廃止された。

戦後西のケーブルが復活したの

は何と昭和32年になってから。山上の電車は元に戻ることなくバス化されて今日に至り、東のケーブルは58年9月1日をもって廃止、バス化されてしまったのである。

今日はその元電車の線路跡を歩こうと言う魂胆。

ところが残念ながら今は自動車専用道路となり歩かせてくれない。

仕方なくバスに乗り信貴山門に至る。

ここに来てお寺にお参りしなければ罰が当たる。とまずはお腹を肥やすことにする。

食後改めてお参り。善男善女に衣代えして手を合せ、遥かに見える大和平野を展望の後後半の行程に入る。

東のケーブルが動いていた当時は参詣客で賑った山門を潜り、今はまばらな土産物の街を通って東ケーブル旧山上駅に着く。

今はバスの駅になっている建物をケーブル山上駅と知る客はいるのだろうか。その前から真直下るひっそりとした桜小道の遊歩道が元のケーブルの線路跡と知る人は更に少ない。

でもそこを通ればところどころ残る枕木に線路跡は明らかで谷越えの鉄橋もそのまま歩ける。

西と違い勾配は最急でも227.27/1000と緩いので歩いていてもそんなに大変ではない。ガヤガヤおしゃべりをしながら1.7?を下る。最後の500mは住宅街の町中を歩いている感じで信貴山下駅に至る。

元の信貴電工場跡や今もある小さな変電所を見て電車に乗り、元山上口駅に至る。ここから東山駅までは大きく変貌したところ。

この生駒線最大の難所とも言うべき谷回りの急カーブも住宅開発との関連で完全に姿を変え、地下

に潜った。

と言うのは正確ではない。正確には線路を大きく変えてカーブを緩くすると共に、逆U型の覆いで線路を塞いでその上を住宅地にしてしまったのである。

そのトンネルの手前で開発途上の住宅地に上れば方角が全然分からなくなってしまった。だだっぴろい広場で東山の新しい駅を漸く見つけたら、随分違った方角に歩いていたことに気付き改めて人間の感の良い加減に呆れる。

掘り割式の東山駅で一部の人と別れ再び生駒線の人となる。

萩の台から南生駒までのほんの一部に信貴電生き残りの線路を見て、南生駒駅からは複線に大型電車が走る近代化された生駒線の現在の姿を見ると間もなく生駒駅。

近鉄の大動脈たる奈良線はさすがに10両の長編成が間断なく走り、やはりその差を思い知る。

長大な生駒トンネルを生駒線とは掛けはなれた高速で抜ければ石切駅。

またまた下車して歩くこと5分、旧生駒トンネルの西口が忽然と現われ、そこに短いホームもそのままの駅が表われる。

今も往時のままのホームと開業当時のままのトンネルポータルが残る駅は奈良線開業当初の大正3年から・日下(くさか) 鷲尾(わしお) 孔舎衛坂(くさえざか)と3回も改名した後に昭和39年9月、新生駒トンネル開通により役目を終え、今も往時の姿で我々の前にある。近鉄の生き証人としての貴重な一つである。

本日のトラスバイクも無事終着駅。

打ち上げの喫茶店でコーヒーを飲む人、ビールで乾杯としゃべり込む人それぞれに今日の一日を満ちて解散した時はもう薄暗くなっていた。

ご苦労様でした、乾杯。

## 関西サークル来年の予定

- 1月15日(日) 13:00  
交通科学館にて例会
- 3月5日(日)  
東舞鶴レンガ博物館及び和田山機関庫見学会
- 4月2日(日)  
名鉄沿線見学会(名古屋地区と共催)
- 5月7日(日) 13:00  
交通科学館にて例会
- 7月2日(日) 13:00  
交通科学館にて例会
- 8月末  
トラストトレイン参加を兼ねた一泊見学会
- 10月10日(祝)  
鉄道ハイキング
- 11月5日(日) 13:00  
交通科学館にて例会



ケーブル廃線跡にて

## 原稿の投稿方法について

もうお気づきかと思いますが、この会報は前号よりアップルコンピュータ社のマッキントッシュ(以下Mac)によるDTP(Desk Top Publishing)編集を行っており、文字、写真、図版はすべてデジタルのデータによって処理されています。つまり、皆さんから寄せられた原稿は、ワープロで入力し、写真や図版はスキャナで入力しています。

で~、これから投稿しようとする方で、編集作業を楽にしてあげようと言う思ってくださいの親切な方へのヒント...

文章はオアシスのワープロか、Text形式のデータ保存ができるワープロかパソコンで、フロッピーは2DD.720KバイトのMS-DOS形式。文章を書くときはページいっぱい書き、改行マークは文章の段落区切りと思われる所に入れてください。(でない、レイアウトしたときに、思わぬ所で勝手に改行してしまうのです。)

それと一応、プリントアウトした物も付けてください。変換したときに、文字化けと呼ばれる変換ミス(記号などに時々見られる)をチェックするためです。

写真は「フォトCD」がベストですが、スキャナをお持ちの方はPICT形式にしてください。

送付方法は、パソコン通信のニフティサーブも利用できます。簡単なものは電子メールで長いものや複雑なものはバイナリでお願いします。IDはMXC00727(田中光一の個人IDです)まで送ってください。

以上は理想論ですので、今までの方法での投稿ももちろん歓迎します。(当然、後者のほうがほとんどでしょう。)

それと、写真にはなるべくキャプションを付けてください。お願いします。

詳しくは田中光一まで.....。

## 日本工業大学見学会

日本工業大学は東武伊勢崎線の東武動物公園駅のそばの田園のなかにある。日本で唯一のB6が動態保存されているところであると同時に、日本で唯一の工業技術博物館を持った大学である。ここでの博物館見学とB6の試乗会が11月5日に開催された。

当日は東武動物公園駅に集合後、徒歩で大学に向かった。大学の正門をくぐると少し離れたところに煙が見え、B6が真新しい車庫の前で煙を吐いていた。この車庫のすぐとなりには工業技術博物館がある。さっそく工業技術博物館の鈴木館長にご挨拶し、博物館の丹治さんに博物館の由来や設立・管理の苦勞についてうかがい、まず博物館の見学である。ここには明治時代初期の足踏みの旋盤から始まって現在の最新のコンピュータ制御の汎用工作機械に至るまでの数多くの工作機械・機器が集められていて、その数は三百点を超えている。しかもこれらの機械はすべて動態保存であり、スイッチを入れればすぐにも工作が始められるようになっている。また、中には、昭和初期の町工場が建物ごと復元されていて、そこには、別置きのもーターからベルトによって駆動される工作機械が置かれ昭和初期そのままの雰囲気を作り出している。

博物館の見学がすむと、その後は待望のB6である。B6は、かつて大井川鉄道で動態保存の先駆けとして活躍していたが、その後千頭駅構内に静態保存されていたものである。これが、1993年に産業考古学会により産

河東東雄

業遺産として認定されると、日本工業大学に寄贈され動態保存されることになったのである。

B6の運転・整備は元国鉄運転士の大石さんである。この日、わざわざトラストの見学会のために蒸気を起こしてくださったのである。学内の専用線路を数往復の後、3人ずつ運転台に乗っての試乗である。秋にしては暖かな日であったのでボイラーからの熱気を感じるが、大きな開放型の窓から入ってくる風が心地よい。運転台に乗るのは初めてであり、予想していたよりは乗り心地がよいのに感激した。また、このB6の静態

保存の状態を知る者から見れば驚くほどきれいに復元されている。

B6試乗後、SLを動態保存していくうえでの問題点や維持管理の苦勞をうかがった。ブレーキ・シューなどの消耗品も部品が簡単に手に入るわけではないし、ボイラーは安全の上から細かい検査が欠かすことができない。また、いくら新しい機関庫での屋内保存とはいえ、時の変化に伴う老化は防ぎようがないのである。

このようなお話の後、さらにこの博物館全般に関する説明・質問の機会を設けていただき、博物館の将来についてもお話をうかがった。そんな充実した一時を過ごしてから大学に別れを告げた。



## 新コーナー 「私のビデオコレクション」 田中"1号" 光一

「夜明けの誓い」(ジャパンホームビデオ KF-5132)100分

「しのび違い」(ジャパンホームビデオ KF-5133)111分

「名もなき花も」(ジャパンホームビデオ KF-5134)90分

この3部作のビデオタイトル。これだけを見て何が何だか解らない人がほとんどだと思いますが、実はこれ、世間が1972年の鉄道100年でわかえる頃NTV系列で放送された、知る人ぞ知る番組「大いなる旅路」のドラマ部分を再編集したビデオなのです。

パッケージに載っていた出演者とストーリーを簡単に書きますと...

第一巻「夜明けの誓い」

出演：原田芳雄、市原悦子、蟹江敬三、浜木綿子、竜雷太

明治三年、日本で最初の鉄道が、新橋、横浜間に敷設されようとしていた。この“陸蒸気”の登場は、国民の最大の関心事であったが、旧幕府軍の相良辰平ら三人の残党は、鉄道敷設に関する政治的陰謀を突き止め、開通式の当日に、鉄橋の爆破を企てるのであった。

第二巻「しのび違い」

出演：加賀まり子、光本幸子、松山省二、山形勲、竜雷太

明治四十五年、新橋、下関間に

日本初の特急列車が登場した。その一号列車乗客はやはり上流階級の者たちばかりであったが、その中に一人、季美香という芸者が乗り合せていた。他の乗客は季美香に冷たい視線を投げかけたが、乗務員の哲夫は、季美香の素直さに心ひかれていくのであった。

第三巻「名もなき花も」

出演：森次晃司、河原崎長一郎、中谷一郎、藤田弓子、武原英子

鉄道機関士を夢見る孝吉は、ある日、幼馴染みの百合と再会した。しだいに二人は愛し合うようになり、将来を約束するのだが、そんな二人に早すぎる別れが訪れてしまう。百合は、病気の母親の薬代を稼ぐために、身売りを決意したのである。孝吉はなんとか百合を連れ戻そうとするが.....。

これらの作品は私の中学時代に放送され、今も忘れられない名作の一つだと思います。当時、この作品の撮影のために、国鉄やその他の会社も多大な協力をしたと思われる、放送当時の画面の中には数々の再現シーンが繰り広げられました。残念ながら、このビデオの中ではほとんど見る事ができませんが(どうしてもドラマ中心で時間的な制約もあるのでしょう)一本一万円以上の大枚をはたいて買った甲斐はありました。

そしてもう一つ忘れることのないのが、この番組のオープニングで使われていた「大いなる旅路」という曲です。当時この曲を歌っていた歌手を調べましたが謎に包まれ(知っている人は知っていた?)新宿の“コタニ”というレコード店でこの曲のシングル盤を見つけたときは飛び上がらんばかりの喜びでした。その証拠にこのレコードは二枚も持っています。

その後、いろいろ調べているうちに、この歌手「小椋佳」のナゾはだんだんと解けて行きますが、当時、テレビに出るわけでもなく(FM東京で「ポップス指定席」という番組のDJもしていましたが)フォークファン以外にはマイナーな存在でした。

それが、「シクラメンのかほり」以降、徐々に名前が知れ渡り、今では知る人ぞ知る(表現がおかしいかな?)という存在にまでなっていました。私などはあまりにも氏に傾倒したため、だんだんと似てきてしまったと言われる程でした。

そんな訳で、この「大いなる旅路」には思い出深いものがあります。そして今では手に入るかどうか分かりませんが前記の三本のビデオが唯一の記録として残っているのです。

P.S. この作品で使われなかった(つまり、おいしい所の前後だけ)フィルムを集めた「蒸気機関車からリニアモーターカーまで」という20分ぐらいの映画フィルムも交通博物館に有りました。(何故か私はこの作品のビデオを持っているが、内緒である。)



# いんぷおめいしょん

## 忘年会

12月14日 19:00 ~ 21:00  
 天狗・東京駅前店(中央区京橋  
 1-1-6 越前屋ビル地下)  
 東京駅八重洲口を出て八重洲  
 通り右側を真っ直ぐ  
 (Phone 3275-3691)  
 幹事名は渡辺一男です  
 会費：ナント4,000円(安い!)  
 申し込みは12月9日までに電  
 話で財団か幹事宅の留守電  
 (045-621-0903いつでも可)へ。

## 冬こそアウトドア

自然サークルからのお知らせ  
 葛飾水元・小合溜井の自然観察会  
 日時：1995.1.29(日)  
 場所：水元公園(東京都葛飾区)  
 JR・京成、金町駅より徒歩25~30分・バス15分  
 集合：午前10時 水元大橋の袂  
 (お弁当は各自持参、持っている人は双眼鏡も)  
 参加費は無料です  
 冷たい風の中、ひっそりと春を待つ木々や、バード・サンクチュアリに  
 羽を休める野鳥とともに半日を過ごします。  
 午後2時頃解散  
 元気な人は江戸川 矢切の渡し 柴又へ(おまけツアーです)  
 京成柴又駅午後4時30分頃解散  
 柴又の人車鉄道[現京成金町~柴又]について資料をお持ちの方、遺  
 構など残っているのをご存じの方ご一報ください、当日の資料に加えま  
 すので。  
 申し込み・問い合わせは財団事務局植田まで

## 原稿ください

会報の発行間隔が大変に開  
 いてしまいすみませんでした。  
 このように発行が遅れたの  
 は、スタッフがさぼっていた  
 ことに原因が有るかもしれま  
 せんが、それ以上に誌面を埋

める原稿が不足しているから  
 なのです。

そこで、まだ投稿をしたこ  
 とのないあ・な・た...そう、あ  
 なたです。

「とらすとれいん」誌上を  
 あなたの原稿で飾って見ませ  
 んか。どのような原稿でもか

## 白川郷合掌文化館 雪下ろしツアー

1月14(土) 15(日) 16(月)  
 宿泊：幸エ門(05769-6-1446)  
 集合は昼...合掌文化館  
 夜...幸エ門  
 内容：将来的に合掌文化館及  
 び旧寺口家の雪下ろしを自ら  
 ボランティアの手で行なえる  
 よう研修に行く。  
 (ホンネ)雪遊びと、合掌文化  
 館内特設レイアウトでの模型  
 運転会及び囲炉裏を囲んでの  
 大宴会。(サークルの新年会も  
 兼ねる)  
 現地までの到達方法  
 メインコース:(車利用) 丸ビル  
 19:00 東名・名神 大津森下邸  
 北陸道 現地  
 申し込みは1月9日まで(申込者  
 にはパンフレット送付します)

まいません。「思い出の写真  
 館」「トピックス」「研究報告」  
 「旅行記」「いんぷおめいしょ  
 ん」など、また、あなたのご希  
 望により特設コーナーもご用  
 意いたします。

“さあ、今スグ、サークルの  
 会報担当まで原稿を送ろう”

## 新年会

...各自でどうぞ